

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価						
○自主性を養う。 ・自らより高い価値を創造しようとする力をつける。 (願う生徒の姿)	挨拶の行き交う学校に 清掃に打ち込む学校に 学習に集中する学校に	歌声の響く学校に 時を守る学校に 読書に親しむ学校に	学習指導の面では、わかりやすい授業になってきていると捉える生徒や保護者が増加した。しかし、家庭学習については一律に宿題を課すことを見直した結果、生徒が自己の課題に沿って取り組めた反面、継続的に取り組む生徒とそうでない生徒との個人差が生じた。来年度、家庭学習例一覧を作成し、年度当初のガイダンスで生徒に示し、定期的に見直しを行う。生活・生徒指導の面では、欠席が増えた生徒が増加した。生徒の様子を注視しながら、気づいたことをすぐに報告・連絡・相談をし、早期発見、早期対応に努める。保護者・地域との連携の面では、来年度も授業や各種行事を積極的に公開していき、保護者・地域との連携を密にして生徒支援の充実を図っていききたい。					
自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる生徒	令和4年度 学校重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	①1人1台端末等のICTの活用、個に応じた支援、少人数学習等を通して「わかる」授業づくりに取り組む。		①については、職員会議の中で先行事例から学ぶICT研修を行うとともに、授業研究会で生徒の学びの姿、立場から互いの実践の良さを学び合ってきた。その成果として、職員の授業改善への意識が向上し、わかりやすい授業になってきている。		○			①研修や教科内研究会、そして授業相互参観を定期的に行い、子どもの学びの姿から互いに学び合える機会を設けていく。
	②すべての生徒がそれぞれの個性を伸ばし、自分らしく生活することができる学年・学級づくりに取り組む。		②については、人権同和教育旬間や各種行事を通して、自他ともに大切にしたり、学校生活の楽しさを実感したりする生徒が増えた。		○			②報告・連絡・相談を確実にし、事実が生じた場合には複数の職員で方策を検討し、チームで対応していく。
	③保護者、地域、外部機関と連携し、開かれた学校づくりや生徒支援の充実を推進する。		③については、授業参観や大星祭など学校開放を積極的に行った。また、地域ボランティアの方々にプリント採点や放課後学習などの学習支援や学校花壇の苗植え・水やりなどをしていただき、生徒の成長や学びに大いに尽力していただいた。		○			③保護者・地域の方・外部機関の方との会合を定期的に行うことで連携を密にし、生徒の成長や学びのために積極的な参画を依頼していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	学習課題の明確化	本時の学習課題が明確で、生徒が意欲的に学べるものになっているか。 【設定方法、提示方法、提示後の生徒の取組】	授業研究会を通して、生徒の疑問や問いをもとに学習問題を設定したり、解決の見通しを生徒と共有し学習課題として板書したりするなど授業改善に取り組んだ職員が多かった。		○			授業研究会や授業相互参観を通して、生徒の姿をもとに互いの実践の良さに学び合うようとする。
		言語活動の充実	授業の中で話し合う場面(情報交換)を取り入れた授業を行っているか。	相談し合う場面を1時間の中に位置付けたり、ICTを活用して意見交換を行うなど対話的に学べるように工夫してきた。		○			自分の考えを深めたり広げたりできるように、対話的な学習活動を1時間の中で位置づけていく。また、ICTを活用して即時共有するなど多くの生徒の考えを共有できるよう工夫していく。
		ICTを活用した授業づくり	1人1台端末等ICTを活用して資質・能力を効果的に育めるよう、教師が各自の課題をもって授業づくりに取り組むことができたか。	全教科において指導主事を派遣することで、生徒の資質・能力を効果的に育むICTの活用について考え合い、授業改善を行った。		○			ICTを活用してより効果的に資質・能力を育む場面について、研修を通して互いの授業実践や先行事例から学び合うようにしていく。
		個に応じた学習支援	授業で視覚化、具体化等のUD化を推進しながら、個に応じた学習指導や補充・発展の支援をすることができたか。【数学科・英語科少人数学習】	職員会議の中で生徒の困り感を体験する研修を定期的に行い、生徒に寄り添いながら合理的配慮を行ったり個に応じた支援を考え合ったりした。		○			研修の時間の中で、視覚化の工夫や個に応じて工夫している支援の方法を互いに紹介し合う時間を設けることで、着手の新たなアイデア、ベテランの経験などから互いに学び合うようにする。
		家庭学習の定着	「授業の予習・復習となる家庭学習」「個に応じた家庭学習」になるよう、自分自身で家庭学習の質を高められるように継続的に指導できたか。	「授業の予習・復習となる家庭学習」「個に応じた家庭学習」への転換を図ることで、生徒が自己の課題に沿った学習に取り組めた反面、継続的に取り組む生徒とそうでない生徒との個人差が生じている。		○			各教科の家庭学習例一覧を作成し、年度当初のガイダンスで生徒に示すとともに家庭にも配付することで、保護者にもお力添えをいただいでいく。
	生活・生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の基本的生活習慣や健康を培う指導ができたか。 【元気アップの取組、遅刻への対応、家庭との連携状況】	専門の講師による視力低下を抑える講演会を実施したり、生活委員による遅刻を減らす呼びかけにより、生徒の生活習慣改善や健康保持を推進してきた。		○			生活リズムが不安定な生徒に、多くの職員で気を配り声をかけていく。また、健康を保てるように、生徒会とタイアップしながら運動やメディア調整を推進する活動を企画、実施していく。
		認め合い、支え合える集団づくり	互いに認め合い、支え合える人間関係を育てる指導に取り組めたか。	人権同和教育旬間や各種行事を通して自他ともに大切にしたり、集団生活の楽しさや所属感を実感したりする生徒が増えてきた。		○			人権同和教育を中心に、相手の立場に立って考え、自他の違いを認め合うことができているかどうか、折に触れて自分を見つめ直す機会を設けていく。
		不登校傾向生への支援・相談室の支援	一人一人の生徒の実態を把握し、チーム支援を進めることができたか。 【支援体制の明確化、支援会議、スクリーニング会議の定例化】	学級担任と係とで具体的な支援の方策を考え合ったり、複雑なケースの場合にはスクリーニング会議で外部機関から助言をいただいたりして継続的に支援してきたが、欠席が増えた生徒が増加した。		○			放課後や教育相談の時間で生徒の不安や悩み等をじっくり聞いたり、日々の生活での生徒の様子に注視し、何か気づいたことがあったら職員間で共有し早期発見早期対応をする。
		安全で安心できる学校	生徒が安全で安心して生活できる学校づくりに取り組んでいるか。 【生徒の声を吸い上げる体制の充実】	生徒の相談にのり即複数の職員で対応することや、校内外の見回りに気づいた危険箇所を修繕することで、安心・安全な学校になるよう努めてきた。		○			生徒に何かあった場合、すぐに報告・連絡・相談をしてチームで動いていく。また、日々校舎内外を見回り、危険箇所に対応する。
		相談活動の充実	生徒にとって相談しやすい環境を整えられたか。【年3回の教育相談、なんでも相談室】	毎学期、1人10分ずつ個別に相談できる時間を設けたり、養護教諭が保健室で生徒の悩みや心配なことを聞いたりすることで相談しやすい環境づくりに努めてきた。		○			毎学期必ず相対する時間を設け、相談しやすい機会とするとともに、日頃から生徒との信頼関係づくりを大切にしている。
学校運営	生徒会活動・学年活動の充実	生徒が前面に出た活動につながるような支援ができたか。	生徒会では大星祭と別日に体育祭を企画し全校で楽しめるようにしたり、各学年で総合的な学習の時間で校外学習の時間を設け、生徒が体験的学習を通して地域から学べるように工夫したりしてきた。		○			生徒会活動や各種行事を、学校教育目標「自主性を養う」を具現化する重要な活動の一つとして捉え、生徒の活動を支援していく。	
	気持ちのよい挨拶	教師が率先して挨拶し、生徒が気持ちのよい挨拶を交わしあうことができるよう取り組むことができたか。	挨拶の行き交う学校になるよう、職員が率先して挨拶をするようにしてきた。また、生徒会でも朝の挨拶旬間を設け、生徒自ら挨拶の輪を広げようとしている。		○			まず職員から挨拶をすることで、生徒がその良さや必要性を体感できるようにしていく。	
	清掃・環境整美への取り組み	身支度を整え、無言清掃に取り組み、校舎内・教室内の環境を整えることができる指導ができたか。	2学期から清掃の時間を増やして生徒と職員ともに清掃に取り組めるようにしたことで、自らの手で校舎等をきれいにし大切にしようとする雰囲気醸成された。		○			まず職員から率先して清掃をする。また、来年度は、生徒会とタイアップしながら清掃開始前の静寂の時間を大切にすることで、黙々と清掃に取り組めるようにする。	
保護者・地域との連携	学校開放日・体験入学等の実施	年3回の学校開放日や体験授業(新入生)等を通して、本校への理解や関心を高めてもらうことができたか。	コロナ禍ではあったが、参観保護者の入れ替えを行うなど感染対策を講じながら授業参観や大星祭一般公開を実施してきた。		○			コロナの状況にもよるが、学校開放や各種行事を積極的に公開していき、本校への理解や関心を高めてもらう。	
	情報の発信	学校だよりや学年学級だより、ホームページ等を通して情報提供し本校の取組に関心を高めてもらうことができたか。	学校・学年だよりを定期発行したり、ホームページを毎週更新することで学校の様子を伝えたりするなど情報発信に努めてきた。		○			定期的に学校だよりや学年学級だより、ホームページ等で学校の様子を伝えるだけでなく、保護者に生徒の成長や学びも伝えるように内容を工夫していく。	
	地域との連携推進	地域と連携し、学習活動や生徒支援を工夫することができたか。【「三中応援団」、学生ボランティアの活用】	地域ボランティアによる学習プリントの〇つけや放課後学習会を実施したり、学生ボランティアに授業に参加していただき、個別に支援をしていただいたりと生徒の学びに大いに尽力していただいた。		○			来年度も地域や学生ボランティアの方々から学習支援や生徒支援をいただき学校連携を推進しながら、生徒の成長や学びに尽力していききたい。	